

ハイデルベルク信仰問答より

問 100 それゆえ呪いと誓いによって神の御名を汚すことは、非常に大きな罪でありますから、神もまた、できる限りそのことを防ぎ禁じようとしないうる者を、お怒りになるのですか。

答え まことに、その通りであります。それは、神の御名を汚すことより大きな罪はありませんし、それ以上、神の怒りを起こさせる罪はないからであります。それが、神が罪を死をもって罰せられるべきである、とお命じになる理由なのであります。

第三戒 あなたは、主なるあなたの神の御名を、無意味に唱えてはならない。なぜなら、主は無意味に御名を唱える者を、罰しないではおかないからである。

「神の御名を汚す」という罪がどれほど大きな罪なのか、ほとんどの人はその重要性を理解していません。神の御名が誰かに汚されて怒りを覚えた経験があるでしょうか。私の子どもの頃の記憶では、一年上の先輩に「お前んち、アーメン、ソーメン、冷そうめんなんだろ?」と言われて腹が立ったことがありました。教会を侮辱されたと同時に、主の御名が汚されたように感じたのです。ある有名な格闘家が試合前のトラッシュトークで対戦相手の宗教を冷やかす発言をして物議を醸したのを見たことがあります。これもその人の信仰が何であれ、してはいけないことでしょう。イスラエルの戒めでは、神の御名をそしった者は死をもって償わなければならないとまで言われています。

あなたはイスラエルの人々に告げなさい。神をそしる者はその罪を負わなければならない。主の名をそしる者は必ず死ななければならない。会衆全体が必ずその者を石で打ち殺さなければならない。イスラエル人であれ、寄留者であれ、御名をそしる者は死ななければならない。(レビ 24:15-16)

「イスラエル人であれ、寄留者であれ」ですから、その適用範囲はイスラエル人だけに留まるものではありません。なぜ「主の御名」はそれほどまでに神聖なのでしょう。朝岡氏は「御名の扱いについてこれほど厳格な要求をされるのは、それが単なる呼び名の問題にとどまらず、神ご自身の存在そのものとその聖さが関係しているから」だと説明しています。

聖書において多くの場合、名前はその人の人格を表すものです。その人がどのような背景の下に生まれてきたか、その人の人生に神のどのような計画が置かれているかが、付けられる名前に込められているケースが多くありました。

出エジプト3:14でモーセに告げられた主の御名「יהוה／ハーヤー」を調べてみると、「成る」「起こる」「存在する」「出る」などの意味が含まれていることが分かります。主は永遠に生きておられ、すべてのものの存在の源であり、ご自身との契約関係にある者と常に共にいるという立体的な意味が読み取れます。そして、創世記の初めから証しされているように、万物をお造りになった方として、全被造か

ら敬意を払われるべきであることが暗示されています。造られた者が自分を造った方を蔑むということとはあってはならないのです。

問いの後半で「**神もまた、できる限りそのことを防ぎ禁じようとし**ない者を、お怒りになる」と言われているように、神の御名が軽んじられている様子を見ながらそれを正さないことも、罪の一端を担うことになるようです。「石で打ち殺す」ということはしないまでも、二度とそのような言葉を口にしないよう教える必要があります。そのときは、神の権威を代表する者として毅然とその相手と向き合うべきです。その逃してはならない瞬間に自分がふさわしく行動できるよう、日頃から祈り備えていることも重要であります。